

北海道山岳地救命研修のご案内

主催者：TACMEDA 協議会北海道支部

開催日時：2018年7月1日（土）10:00~18:00

開催場所：FLHQ（ファストアンドライトヘッドクォーターズ）2F 会場

〒065-0017 北海道札幌市東区北17条東1丁目1-18

TEL：011-769-0489

受講費：16,178円

定員：50名

参加申し込み：<https://business.form-mailer.jp/fms/c344e3a187321>

北海道山岳地救命研修の趣旨

【北海道の厳しい自然での救命法】

世界で最も実効的な救護・救命の総合教育を世界13ヶ国に提供してきた一般社団法人TAMEDA（タックメダ）が北海道の厳しい自然における救命法講習を開催します。

TAMEDAは国内唯一の、誰でも受講できる本格的な外傷救護・救命体験的学習講習を提供しており、習得率75~90%の即効かつ実効的教育メソッドは大変な好評で、新聞やテレビなどの各種メディアで取り上げられています。

この度、北海道で陸上自衛官として13年間勤務し、東日本大震災では被災地で最初に活動を開始した医療部隊の隊長を務めたTAMEDA 照井代表理事が北海道ならではの総合的救命法教育をFLHQとの共同で構成し、北海道初開催となりました。

【北海道における外傷の特性】

1 厳しい自然環境

雪の上で心臓マッサージを行っても効果が無い、体が冷えている状態ではAEDが効力を発揮しにくくなる。出血は止まりにくくなるなど、積雪寒冷地ならではの困難さがあれば、低体温、凍傷などの寒冷損傷、スキー・スノーボード外傷なども発生する。さらに積雪などにより救急車の運行やドクターヘリの飛行に制限を受ける。

2 北海道ならではの事故

行楽シーズンでは道外からの観光客による交通事故が頻発し、事故発生

時の速度が速いために重傷化する。路面凍結による交通事故、歩行者転倒事故、落雪事故、雪下ろしに伴う転倒事故が発生する。

【自然環境における傷病の特性】

1 発生場所が病院から遠く離れている

登山などのアウトドアでは外傷や心停止などの傷病発生場所が病院から遠く離れており、救急外来への到着までに長い時間を要することが多い。

2 大型獣による事故・外傷

北海道は世界平均の5倍ものエゾシカ、ヒグマなどの大型獣の遭遇率であり、これに伴う交通事故や銃猟時の事故、大型獣による外傷などが発生する。

3 地震

最近頻発している地震や津波などの自然災害による外傷

【国際情勢における傷病の特性】

1 弾道ミサイル

北朝鮮が発射する弾道ミサイルがハワイの米軍基地を狙う場合、北海道上空を通過する。北朝鮮の核実験場廃棄などのニュースが流れるが、今までに何度も核放棄を宣言しては核開発を再開させてきただけに信用できない。北朝鮮の決定や表明には「核を開発しない」「核兵器を放棄する」とは書かれていない。「弾道ミサイルを開発しない」とも、「弾道ミサイルを保有しない、放棄する」とも書かれていない。単に米朝首脳会談までの間、核実験やミサイル発射をしないとやっているに過ぎない。

2 爆弾テロ

北海道でも、1976年3月2日午前9時2分頃、札幌市中央区の道庁本庁舎1階ロビー西側エレベーター付近で爆発が起こり、出勤途中の職員である男性（50歳）と女性（45歳）の2人が死亡、95人が重軽傷を負い、天井が落下するなどの被害を出した。爆発したのは時限式消化器爆弾。

三菱重工爆破事件からの連続企業爆破事件の犯行グループ「東アジア反日武装戦線」の大森勝久（当時27歳）が逮捕され死刑判決が決定し、2018年現在、札幌拘置支所に収監されている。

以上のことから、アウトドアの観点から北海道で最も厳しい自然環境である冬季の山岳地におけるセルフレスキュー技術としての救護技術を中心に、交通事故やテロ対策にも応用できる研修内容を構成しました。本研修で学べる

内容は世界最先端のものです。アメリカではStop The Bleedキャンペーンとして小学生が学校で習う内容ですから、誰でも楽しく学べます。

【北海道山岳地救命研修の内容】

- 1 積雪寒冷地における心肺脳蘇生法と AED の使用法、成人から小児まで
- 2 致命的大出血の止血法、止血帯、結合部用止血帯、包帯状止血剤の使用法
- 3 スキーやストックなどを用いる骨折部位の安定化
- 4 靴やリュックサックを用いる脊椎頸椎保護法
- 5 キャンプなどでの着火剤による火災の消火法と熱傷の手当て法
- 6 炎上する自動車からの救出法、窓ガラス破壊法、シートベルト裁断法
- 7 山岳地でのサバイバルポイントの設置法
- 8 捜索する航空機への対空信号
- 9 弾道ミサイル対処法
- 10 誰でも水無しでできる化学物質、放射性物質などの汚染除去法
- 11 積雪寒冷地、山岳地、市街地において1人できる傷病者運搬法
- 12 急流で溺れている人の救出法
- 13 誰でもできるショック状態の観察、評価法
- 14 誰でもできる多発性肋骨骨折の救急処置、緊張性気胸の胸腔減圧法
- 15 怪我をしていない方の眼球の動きを抑制し自分で下山できる目の手当法
- 16 積雪寒冷地における負傷者の体温維持法、加温法
- 17 10人の重症外傷傷病者に1人の医療従事者が対処する方法
- 18 爆破テロや銃乱射事件から生き残る方法
- 19、銃創・爆傷・刃物による致命的外傷の救急処置と応急治療

以上、ライフラインから離れた場所で、積雪寒冷地、山岳地という厳しい環境で負傷した場合、自分たちで脱出し、手当をし、救援を呼び病院までたどり着くまで生命を維持するための救急処置法を学べます。「山菜採り」、「ブッシュクラフト」「ハンター」「登山」といったアウトドアフィールドをより安全に楽しめるようになることはもちろんのこと、交通事故や自然災害、テロ、弾道ミサイル対処まで応用が利く内容です。

TACMEDA が行う教育内容

TACMEDA が行う教育は世界的な外傷救護・初期治療発展の国際的取り組みである ITLS: International Trauma Life Support に基づいています。TACMEDA は

Tactical Medicine Asia の略であり、米国に本部がある Tactical Medicine ESSENTIALS の東アジア地域での活動を担当しています。Tactical Medicine ESSENTIALS は ITLS の創始者達が立ち上げたもので、双方に教育内容の整合がとられ、アメリカ救急医学会より後援されています。

TACMEDA は日本において米国本部同様の世界最新、最先端レベルの TacMed コースを開催しています。コースはアメリカ救急医学会認定であり、世界中に通用する国際認定証を発行しています。インストラクターは海外で実際に研修を受けて習得し、世界中に総合的救命教育を提供してきた実績を重ねています。自然災害、テロ、戦争、CBRNe、弾道ミサイル、いかなる大量傷病者が発生した場合でも、最大多数の最大救命を実現させるための有事の医療的戦術“tactics”について学べる教育内容は DMAT、自衛隊、警察官、消防、救助隊といった災害現場のプロ達に支持されています。

【講師プロフィール】

照井資規（てるいもとぎ）

1973 年愛知県生まれ

医科大学非常勤講師、4誌に連載をもつ災害・事態対処・軍事医療ジャーナリスト、国際標準事態対処医療インストラクター養成指導員
銃創、爆傷、刃物による致命的な外傷の救護・初期治療について精通すると共に

その原因となる兵器、戦闘の様相、作戦、軍事情勢の最新情報まで伴うその教育は、自衛官・警察官から「今、最も生き残る方法を学べる」と絶大な支持を集めている。

新聞に取りあげられること5回以上、国会議員への講演も3回担う。

1995年HTB（北海道テレビ放送）映像株式会社（当時の名称）に勤務し、北海学園法学部（2部）に通学しながら報道番組制作、テレビ局でのニュース番組放映に携わることで戦後最大と言われた日本の危機を報道の視点から見続ける。

1995年1月17日 阪神・淡路大震災

1995年3月20日 地下鉄サリン事件

1995年3月22日 オウム真理教事件

1995年6月21日 全日空857便ハイジャック事件（函館ハイジャック事件）等

1995年10月26日 陸上自衛隊に入隊、第3教育連隊 新隊員前期課程

(北海道札幌市真駒内駐屯地)

陸上自衛隊在職中

陸上自衛隊の地上戦の骨幹となる職種、普通科（歩兵）特科（砲兵）機甲科（戦車・偵察）の総合学校である陸上自衛隊富士学校にて研究員を務め、医療の専門学校である陸上自衛隊衛生学校でも研究員を務め、それぞれに教科書編纂に従事したため、現代戦の総合的見地と戦傷医療の専門的見地の両面からの分析・考察・研究・教育ができる。

2018年2月28日発売の著書「イラストでまなぶ！戦闘外傷救護」は発行から1カ月を経たずして初版6,500部が売り切れとなる。

2015年11月 陸上自衛隊退官後はアジア事態対処医療協議会（TACMEDA）代表理事として医学生、自衛官、警察官、JICAを中心に世界最新の総合的救命法、戦闘外傷救護、災害医療、テロ対策医療について教育し、その活動は世界中に及んでいる。

一般社団法人 TACMEDA については

<http://tacmeda.com/index.html>

一般社団法人 TACMEDA 開催コースについては

<http://tacmeda.com/schedule.html>

講師の履歴については

<http://tacmeda.com/profile.html>

TACMEDA の講習会には、今までに多くの自衛官、警察官、消防、救命士、看護師、医師、防災ボランティアが参加しています。

これからの活動に一般市民にも声がけして、防災意識の向上、セルフレスキューのスキルアップを高めることにも寄与していきたい、北海道民の生活安全を高めていく活動になればという思いがあります。北海道民、官民一体となって災害による被害を抑制できる街づくりに、北海道新聞社のご賛同を頂きましたなら幸にございます。